

昭和38～43年卒 理工ボート部草創期の記録



昭和40年10月 相模湖レガッタで優勝
理工ボートに初の「優勝カップ」
同時開催の「全日本大学ナックル」で2位入賞

中列左から

2人目 佐藤肇 (S39年卒)

3人目 渡辺紀仁 (S39年卒)

前列右から

4人目 鈴木啓太郎 (S41年卒)

前列左から

2人目 中島田正徳 (S39年卒)

3人目 柳内龍二 (S39年卒)

4人目 浮田監督 (S32年卒)

中央 村松部長 (S15年卒)

昭和42年卒業 (昭和38~42年)



夏合宿（萩野）の帰り道にて

最初の相模湖レガッタ
レース半ばにしてコックスは「もうダメだ！」



クラブ最初のユニフォーム
“スーパーマンスタイル”

健全な精神を宿すべく努力した人達



2年生 相模湖春合宿（その1）



2年生 相模湖春合宿（その2）



2年生 相模湖春合宿（その3）

2年生夏合宿 (相模湖)
2階は外語大女子ボート部の合宿所



中日本レガッタ出漕
レース前日...余裕あり



レース直後 右端の人...シートが3回外れて渋い顔



レース翌日 「試合のことは忘れた?!!」



ベストクルー (秋...相模湖レガッタ)



42年卒

学生生活最後のレース

世界選手権日本代表を目指した



4年生春 丹沢ハイク

(この日富士山中に旅客機墜落)



とき
栄光の秋 (昭和40年11月)

(全日本Jr 付ペア 優勝
相模湖レガッタ 大学ナックル 優勝
全日本大学ナックル 準優勝)



OBになって



心の故郷・・・荻野の夏



合宿所では
ありません。
(念のため)



フィックス (固定席艇) ...
下手なナックルよりよっぽど速い!

昭和43年卒業 (昭和39~43年)



昭和41年春 相模湖にて

昭和42年夏 荻野



昭和42年夏 早稲田艇庫



昭和40年秋 相模湖レガッタ
優勝
初めて「優勝」を理工ポートへ



昭和42年夏 Oxfordエイト決勝4位

昭和40年秋
相模湖レガッタ Jrフォア





昭和40年秋 理工ボート大会 (相模湖)



昭和40年秋 相模湖にて



昭和40年春 ボート部室横



昭和41年春 丹沢登山



昭和42年卒業記念 大隈庭園にて

前列左から

末松 (S43年卒)
 田中 (S40年卒)
 鈴木 (S41年卒)
 服部 (S43年卒)
 渡辺 (S40年卒)
 渡辺 (S39年卒)
 柳内 (S39年卒)
 葛生 (S42年卒)
 初島 (S42年卒)
 藤田 (S42年卒)
 仁野 (S42年卒)

中列左から

秋葉 (S43年卒)
 金谷 (S42年卒)
 村田 (S42年卒)
 漆畑 (S42年卒)

後列左から

諸留 (S43年卒)
 土屋 (S42年卒)
 伊藤 (S42年卒)
 近藤 (S42年卒)
 清水 (S42年卒)
 岡本 (S42年卒)
 佐藤 (S43年卒)
 高見 (S42年卒)
 渡辺 (S42年卒)
 藤田 (S43年卒)
 長谷川 (S42年卒)



昭和39年秋 相模湖レガッタ



昭和40年夏 荻野合宿

未だに越えられない「柳内組織論」

昭和43年卒 坂本荘太郎

「うちのボート部いろんなヤツかいていいんだよ」。これは理工ボートの産みの親、育ての親の柳内龍二さんのコトバです。部会で、あるいは戸田の合宿所で何度聞いたことでしょう。私はこのコトバを卒業以来35年間も頭の中に大切にしまい込み、歳相応にその時々 of 会社内での立場で、人事や組織改編を行う時の原点にしてきました。このコトバには、一人ひとりの人格を認め、さらにその人の持っている良さを引きだそうとする考えが含まれていて、企業を初めとしてどのような組織においても、今一番求められていることです。

「会社には、いろんなヤツかいていいんだよ。その多様性から次の発展があるんだよ」。こんな柳内さんの声が聞こえてきそうです。



昭和40年春 ボート部室横にて



昭和40年春 お花見レガッタ



昭和40年春 相模湖合宿



昭和40年秋 浮田監督

創立40周年にあたって

昭和43年卒 藤田 健助

40周年おめでとうございます。OBの方々も世界各地でお喜びのことと思います。もう40年か、確かに40年、自分も歳とるわけだ。これが為らざる気持ちはです。キャプテンだった高橋の葬式を機会に、ここ1～2年特に柳内先輩はもとより同年代（42～44年卒）の皆様にお会いする機会が多く楽しい思い出をしております。特に同学年で一緒にボートを漕いだ仲間とは佐藤 服部が富津や館山に家を建てたことも有り、行き来する機会が多くなりました。服部邸には迷惑顧みず、新築間もない家に夫婦で3回も泊めてもらいました。また、何かあると世話役（私が勝手に思ってる）坂本社長が音頭を取ってくれて集まっています。最近は流石にボートを漕ごうとゆう人もおらず、もっぱらゴルフです。仕事の合間ぬってそれぞれの夫婦で楽しんでおります。

卒業してから地方勤めが長くあまり行き来がありませんでしたが、メールを利用すればブラジルの青木の状況もわかり、便利な世の中になりました。学生時代に一緒に合宿してボートを漕いだ仲間と歳をとって話したり遊んだり出来る、こんな喜びを感じられるのは苦しい練習に負けずやめなかったからです。学生の皆様是非ボートを続けられ仲間を大切にされ人生を謳歌してください。



昭和40年秋 ジュニアフォア初出場
乗艇前のジョギング



昭和41年春 理工ボートに初のシェル艇「稲雲」進水 第35回早慶レガッタにシェルフォアで初出場（昭和41年4月17日）



昭和41年夏 Oxford楯 エイト初挑戦



昭和41年正月 相模湖での初漕ぎ



昭和41年秋 相模湖レガッタ
大学ナックルフォア優勝



昭和42年8月Oxford楯エイトで決勝4位
Crewは4年生5人、3年生4人

夢 理工ボート部塾

昭和S43年卒 佐藤信彦

ボートを愛し、部を作り、集い。40年。

そして、今。理工ボート部卒の才能は、世界各地で花開き、世界を支える
同じ動作をするボート。しかし一人一人違う。合唱のごとし。すてきなハーモ
ニー。それが、ボートの醍醐味。

今。個性を大切に、個性を育てようと。しかし、それは、わかまな人を作り出す
傾向がある。そんな今。21世紀。

理工ボート塾を作り、子供を大人を育てたい。理工ボート塾。世直し塾。
いつにするか。どこにするか。頭の中はいっぱい。日々楽し。ありがとうございます。